

[第 121 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 3年 12 月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 4年 1月 9日(日) 15時~17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 内村鑑三著『代表的日本人~中江藤樹』p.144~ (用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

令和 3年 12 月 4 日(土)午後、第 120 回人間学塾を開きました。今回の参加者は女性 3 人を含め 11 人でした。

今回は『中庸解』第 27 章の下段です。大意を次のように話しました。

「君子(教養人)は徳性を尊ぶゆえに上の地位にいても偉そうにせず、下の地位になっても無駄な反抗はせず、道理の通る時世であれば互いに志を立てて徳のある行動をし、道理が通らない時世であれば自分の身を修めて時節の到来するのを待つ。詩にも言われている。良知の本体の明が大宇宙とつながっているその身体を守ると」。

この節は人道を説いているので、聖人の具体例として「致知」に掲載された『代表的日本人』を紹介しました。中江藤樹、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、日蓮上人の 5 人には見事なくらい私利私欲がない。そして幼い頃に両親と死別するなど様々な困難を乗り越えながら歴史に名を残す人物になっている。藤樹先生は「学者とは徳のある人をいう。徳のある人とは、善行を日々積むことをおろそかにしない人をいう」と言われている。先生の徳が人々を感化し、地域が穏やかな土地柄になっていった。

そして、同じく「致知」に掲載された田坂氏の「いまを生きよ、いまを生き切れ」を紹介しました。彼は 32 歳の時重い病気を患い、「もう長くは生きられない」との宣告を受けました。…禅師から「今を生きよ！いまを生き切れ！」と言われ、今日という一日を、精一杯に生き切ろう！と覚悟を定めた瞬間、病を超えた。…

私たちは有限の命をいただいて、生かされています。だから「生きているだけでも言葉に尽くせないほど有り難い！」という感謝の心と「逆境でも自分には克服できる力がある」という絶対肯定の精神をもって一日一日を大切に生き切りましょうと述べました。

参加者からは「今日の話と日野原先生のいのちとは時間だという話が繋がった」、「改めて生きていることに感謝しながら一日を大切に生きたいと思った」、「自分を内観でき気付きを得ることができた。日々の生活に活かして豊かに生きたい」、「和やかな雰囲気とても良かった」等の意見、感想をいただきました。

塾の後、久しぶりに懇親会をして楽しみました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。